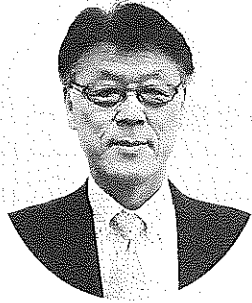


■ 巻 頭 言 ■

協会運営の多様化



埼玉県設備設計事務所協会
会長 金子和己

私ども建設業界に身を置くものにとって、ここ数年の建設業界の変化には大いに期待できるものが色々あり、中でも建築分野において、法改正により建築関係資格の新設、設計報酬料基準の見直し等、建築業界の現実に軌道修正が施されたかたちとなり、建築設計事務所経営には厳しい条件とも成り得るがこれを真摯に受け止め事務所経営の活力とし、経営基盤をより強固にする機会と思っ
て間違いのないでしょう。

私たちの生活の基になる「仕事」＝“職業とは生計を立てるために日常的に従事する労働。被雇用者は給与であり、事業者にあつては利益を得るためになされる“とあります。

『人は毎日の生活の中に「幸福」を求めて生きている。「人間は考える葦である」(パスカル)から学べるようにひとは常に考え、行動することが目的達成の手段であり動機になる。』・・・設計事務所経営にとって今必要なことは、人材育成、高度の知識とそれを補う学習環境の充実が求められています。また、近年省エネ、地球温暖化、環境保護など建築設計に影響する課題もおおく、省エネ技術の採用、CO₂抑制のための設計技術の応用、サステナブル建築技術の習得と様々なところで常に学び行動することが、我々設計者として必要なことであるのではないかと思います。

私ども埼玉県設備設計事務所協会もおかげさまで30年の年輪を刻む事ができました。今までの協会運営を礎に多様化に向け一層の調査、研究に励み、よりよい方向性を見出して行きます。

さあ！やらなければならないことが一杯ありますよ。いつも前向きに！まずは最初の一步から確実に前進しましょう

関係各位のご指導、ご協力に心より感謝申し上げご挨拶とさせていただきます。